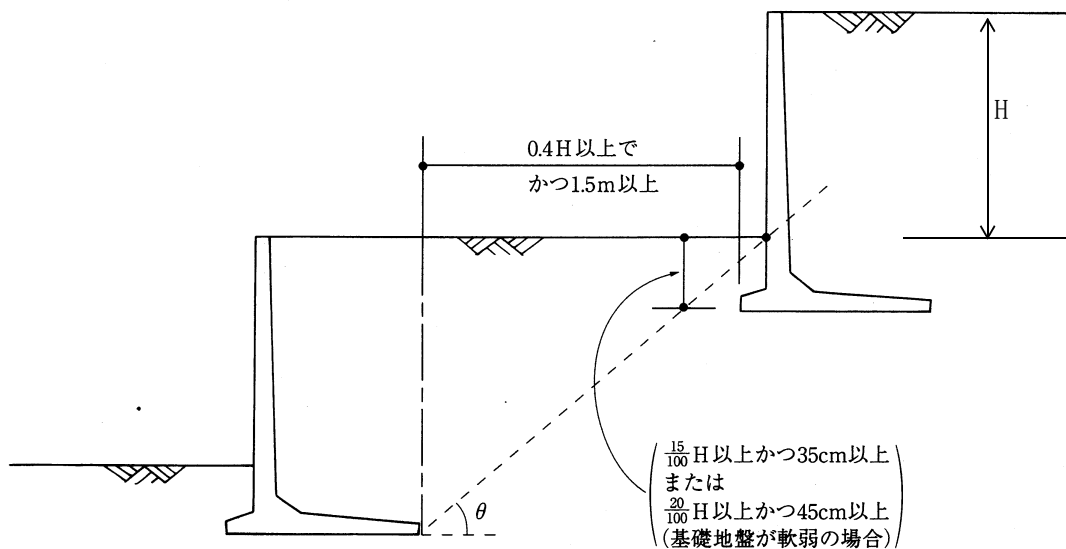
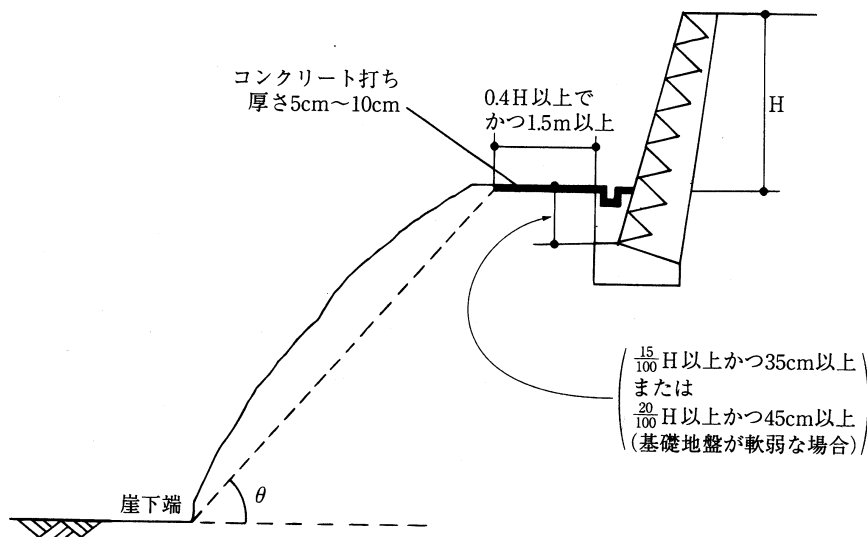


1. 9. 2 擁壁設置上の留意事項

○『構造図集 擁壁』（社）日本建築士連合会、平成13年12月）

崖や擁壁に近接し、その上部に新たな擁壁を設置する場合は、下部に有害な影響を与えないよう設置位置について十分配慮する。設置する場合の一般的注意事項を下記に示す。

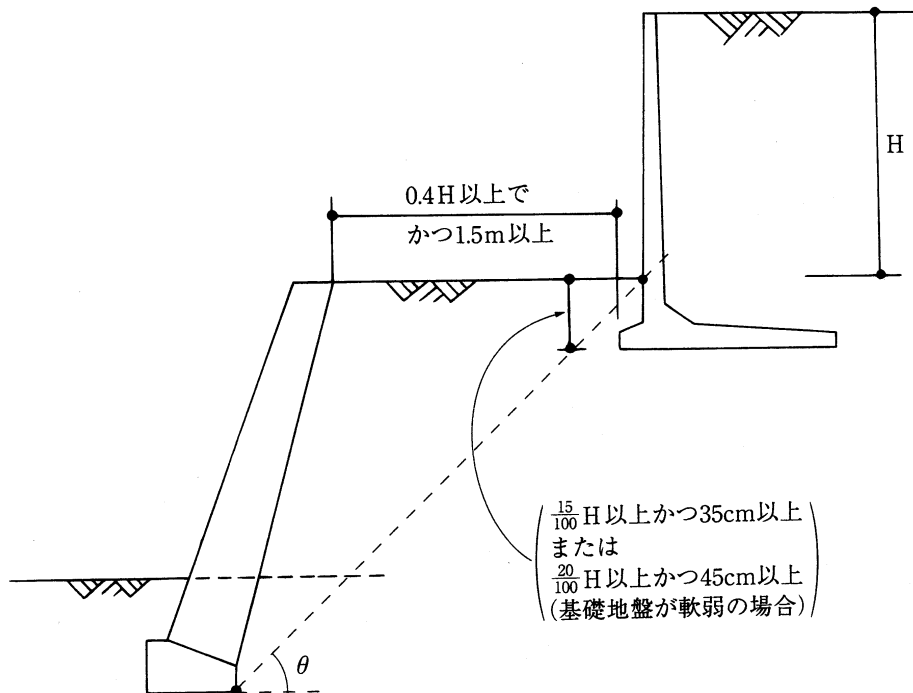
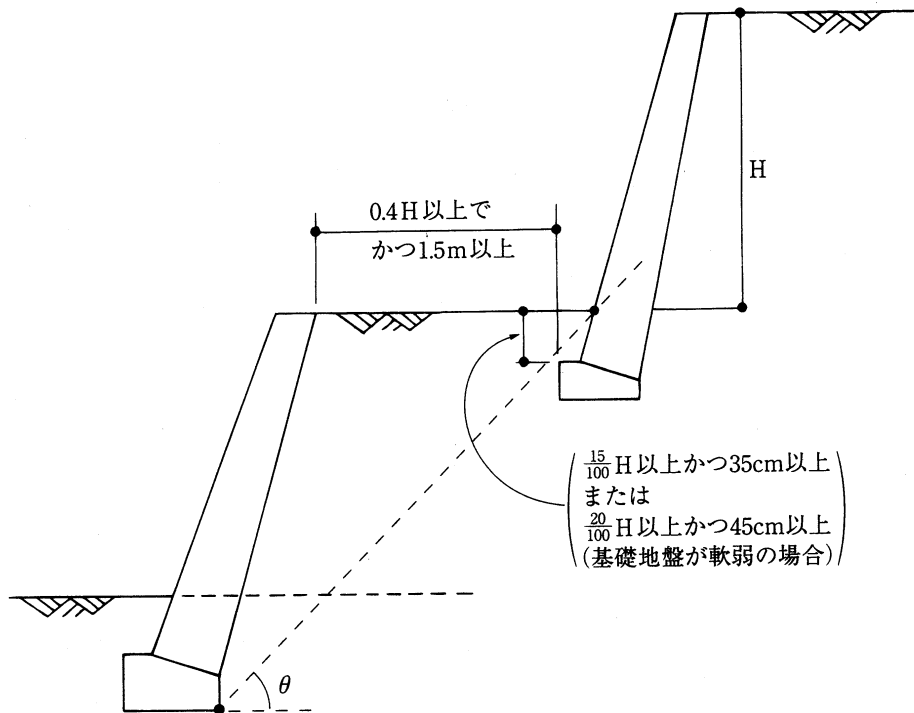
- (1) 斜面上に擁壁を設置する場合には、図のように擁壁基礎前端より擁壁の高さ $0.4H$ 以上で、かつ、 1.5m 以上だけ土質に応じた勾配線（表の θ 角度内）より後退し、その部分はコンクリート打ち等により風化侵食のおそれのない状態にすること。



土質別角度 (θ)

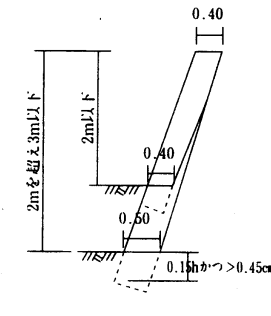
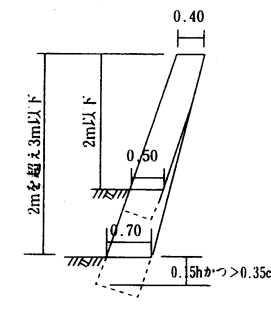
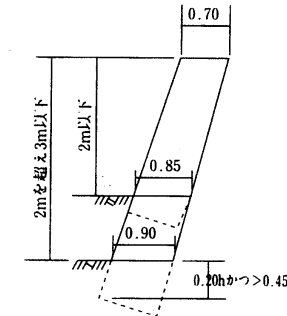
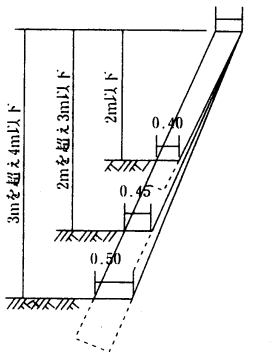
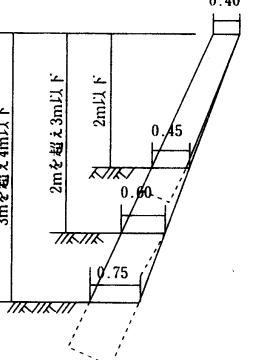
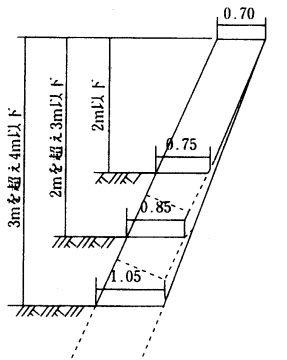
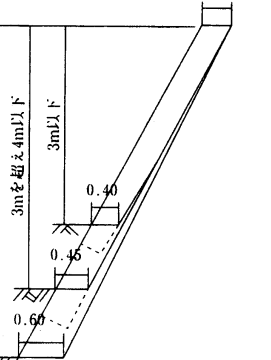
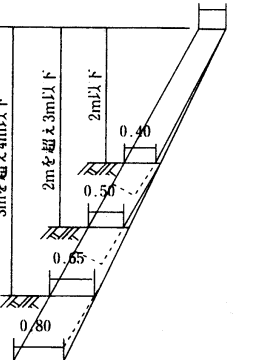
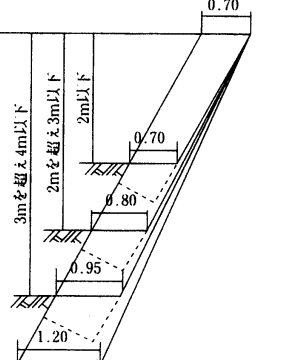
背面土質	軟 岩 (風化の著しいものを除く)	風化の著しい岩	砂利、真砂土、硬質粘土 その他これらに類するもの	盛土又は腐食土
角度 (θ)	60°	40°	35°	25°

(2) 図に示す擁壁で表の θ 角度内に入っていないものは、二段の擁壁とみなされるので一体の構造とする必要がある。なお、上部擁壁が表の θ 角度内に入っている場合は、別個の擁壁として扱うが、水平距離を擁壁の高さの $0.4H$ 以上で、かつ、 1.5 m 以上離さなければならない。



1. 9. 3 練積み造擁壁の構造

(1) 練積み造擁壁の構造 (宅地造成等規制法施行令別表第4)

がけの土質 擁壁の勾配	第1種 岩、岩層、砂利又は砂利混り砂	第2種 真砂土、関東ローム硬質粘土その他これらに類するもの	第3種 その他の土質
70°を超え75°以下(約3分)	 <p>h: 擁壁の地上高さ</p>		
65°を超え70°以下(約4分)	 <p>根入れは上欄と同じ</p>	 <p>根入れは上欄と同じ</p>	 <p>根入れは上欄と同じ</p>
65°以下(約5分)	 <p>根入れは上欄と同じ</p>	 <p>根入れは上欄と同じ</p>	 <p>根入れは上欄と同じ</p>

○練積み造擁壁の裏込めの厚さ

勾配	高さ (H)	裏込めの厚さ	
		上端部分 (g 1)	下端部分 (g 2)
70° を超え 75° 以下	2 m以下	30cm	30cm (60cm)
	2 mを超え 3 m以下	30cm	30cm (60cm)
65° を超え 70° 以下	2 m以下	30cm	30cm (60cm)
	2 mを超え 3 m以下	30cm	30cm (60cm)
	3 mを超え 4 m以下	30cm	30cm (80cm)
65° 以下	2 m以下	30cm	30cm (60cm)
	2 mを超え 3 m以下	30cm	30cm (60cm)
	3 mを超え 4 m以下	30cm	30cm (80cm)
	4 mを超え 5 m以下	30cm	30cm (100cm)

(注) () 内は地山が盛土のとき適用する。

- ① コンクリートブロックの四週圧縮強度は、 $18\text{N} / \text{mm}^2$ 以上とし、かつ、質量は $350\text{kg} / \text{m}^2$ 以上とする。
- ② 胴込め、裏込め、基礎に用いるコンクリート四週圧縮強度は、 $18\text{N} / \text{mm}^2$ 以上とする。
- ③ 原則として、谷積みとする。
- ④ 道台擁壁として使用する場合は練積み造擁壁の構造は、道路管理者と協議を行うこと。
- ⑤ 練積み造擁壁に必要な地耐力は、下表による。

○擁壁高さに応じた必要地耐力

単位 (KN / m^2)

高さ (m)	$\theta \leq 65^\circ$	$65^\circ \leq \theta \leq 70^\circ$	$70^\circ \leq \theta \leq 75^\circ$
2	75	75	75
3	75	75	75
4	100	100	—
5	125	—	—